

(学校番号012) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【仲町小学校】

4月22日 目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」との比較において、市平均値との差を向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を朝自習や授業、家庭学習で活用し、漢字や計算等、基本的な知識・技能の習熟を図る。また、漢字ドリルや計算ドリルも繰り返し活用し、書いて覚えることにも引き続き取り組ませる。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」との比較において、市平均値との差を向上させる。	⇒ タブレット端末や実物投影機、デジタル教科書等ICT機器を授業の道具として利用し、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」に取り組み、思考力、判断力、表現力の向上を図る。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 児童一人ひとりが問題意識をもち、課題解決のための見通しを立て、必要な情報を収集、活用、整理していく問題解決型の学習を意識した授業の展開に取り組む。

9月1日 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能		⇒ 変更なし
思考・判断・表現		⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度		⇒ 変更なし

8月24日 全国学力・学習状況調査結果・分析	
R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、全国や市の平均と自校結果とを比較すると、国語、算数、理科ともに良好な結果となった。しかし、算数では、数量が変わっても割合は変わらないことを捉えきれない児童が多かった。また、理科では、日光は直進することを理解していない児童が多かった。	
R4年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、全国や市の平均と自校結果とを比較すると、国語、算数、理科ともに良好な結果となった。しかし、算数では、85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方に誤答が多かった。また、理科では、実験の結果を分析し、解釈し、自分の考えをもつことに課題が見られた。	
R4年度全国学力・学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は96%であった。また、各教科の無解答率が全国平均より低く、粘り強く取り組んでいる状況がうかがえた。「国語の勉強は好きですか」、「算数の勉強は好きですか」、「理科の勉強は好きですか」の各質問については、65～79%の児童が肯定的に回答した。今後は「授業が好き」、「授業が楽しい」とさらに思えるような授業改善を進めていく必要がある。	

2月16日 さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	市の平均と比較し、国語、算数ともに良好な結果となった。全体としては良好な結果ではあるが、特に国語において学習内容の定着がもう一步の児童もいた。生活習慣に関する調査では、基本的な生活習慣がよく身に付いているようである。	小4	市の平均と比較し、国語、算数ともに良好な結果となった。全体としては良好な結果ではあるが、国語、算数ともに学習内容の定着がもう一步の児童もいた。生活習慣に関する調査では、基本的な生活習慣がよく身に付いているようである。
小5	市の平均と比較し、国語、算数、社会、理科ともに良好な結果となった。全体としては良好な結果ではあるが、学習内容の定着がもう一步の児童もいた。生活習慣に関する調査では、基本的な生活習慣がよく身に付いているようである。	小6	市の平均と比較し、国語、算数、社会、理科ともに良好な結果となった。全体としては良好な結果ではあるが、学習内容の定着がもう一步の児童もいた。特に、理科の「地球」を柱とする領域に課題がみられた。生活習慣に関する調査では、基本的な生活習慣がよく身に付いているようである。

2月28日 成果指標に対する達成状況		評価(※)
知識・技能	R4年度の国語・算数の結果は良好であった。一方、R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」との比較において、市平均値との差は伸びず、やや縮まった。	B
思考・判断・表現	R4年度の国語・算数の結果は良好であった。一方、R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の国語・算数の「思考・判断・表現」との比較において、市平均値との差は伸びず、やや縮まった。	B
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、それぞれ約96%、約91%であった。	A

3月3日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には良好な結果となり、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。一方、個人差もあることから、ICTを活用した学びや家庭との連携・協力を進めるなど個別に必要な支援を実施していく必要がある。理科の「地球」を柱とする領域については、課題であることを教職員で共有し、中学年の学習から定着が図れるようにし、高学年の内容へつなげていく。
思考・判断・表現	全体的には良好な結果となり、思考・判断・表現の一定の定着を図ることができた。一方、個人差もあることから、個別に必要な支援を実施していく必要がある。また、ICTを活用した学びを継続していく。理科の「地球」を柱とする領域については、課題であることを教職員で共有し、中学年の学習から定着が図れるようにし、高学年の内容へつなげていく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、それぞれ約96%、約91%であったことから良好な結果と判断し、引き続き、児童一人ひとりが問題意識をもち、課題解決のための見通しを立て、必要な情報を収集、活用、整理していく問題解決型の学習を意識した授業の展開に取り組んでいく。

※評価

- A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一步)
B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)